

(別添)

2020年7月21日  
NITE (ナイト)  
独立行政法人製品評価技術基盤機構  
中 部 支 所

# News Release



## 楽しいはずの「おうちごはん」で事故のおそれ ～台所用品による子どもの事故に注意！使い方を教えて、見守る～ ～ 東海4県版 ～

外出自粛やテレワークなどにより在宅時間が長くなったことで料理する機会が増えています。また、休園・休校などで子どもと一緒に過ごす時間が増えたため、家族そろって料理を行う“おうちごはん”が SNS 等で話題になっています。夏休みなどで今後も子どもが料理する機会が増えると考えられることから、NITE (ナイト) は台所用品<sup>※1</sup>による子どもの事故防止のために注意喚起します。

NITE (ナイト) が収集した台所用品による子どもの事故情報は、東海地方4県 (静岡県、愛知県、岐阜県及び三重県) では、2010 年度～ 2019 年度までの 10 年間に合計 5 件<sup>※2</sup>あり、被害状況は重傷 2 件 (40%)、軽傷 2 件 (40%)、拡大被害 1 件 (10%) となっています。そのうち 3 件 (60%) が火災に至っています。

子どもの事故では、子どもの行動が関連して事故が起こる場合が多く、子どもだけの時や大人と一緒にいても目を離れた際に事故が発生しています。また、6 歳までは電気調理機器によるやけど、7 歳以降になるとガス調理機器による事故が目立ちます。

台所用品による子どもの事故を防ぐためには、製品事故や危険性について保護者が十分に認識することが重要です。一緒にいる際は子どもから目を離さない、手伝ってもらう際は正しい使い方や危険性について子どもと一緒に確認するなど、子どもの行動を見守り、事故を未然に防ぎましょう。

(※1) 本部資料の P 2 対象製品を参照願います。事故情報のうち、子どもが被害者または使用者だった事故の製品のみ対象。なお、包丁で手を切るなどの事故は、許容可能なリスクとして社会が受け入れている事故のため対象外。

(※2) 2020年5月31日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

## 1. 台所用品による子どもの製品事故の発生状況

### (1) 東海 4 県の年度別 事故発生件数

表 1 に台所用品による子どもの製品事故の「県別」及び「年度別」の事故発生件数<sup>※3</sup>を示します。

表 1 台所用品による子どもの「県別」及び「年度別」の事故発生件数（単位：件）<sup>※3</sup>

年度	静岡県	愛知県	岐阜県	三重県	総計
2010 年度	2	0	1 (1)	0	3 (1)
2011 年度	0	0	0	0	0
2012 年度	0	0	0	0	0
2013 年度	0	0	0	0	0
2014 年度	0	0	0	0	0
2015 年度	0	0	0	0	0
2016 年度	0	0	0	0	0
2017 年度	0	1 (1)	0	0	1 (1)
2018 年度	0	1 (1)	0	0	1 (1)
2019 年度	0	0	0	0	0
合計	2	2 (2)	1 (1)	0	5 (3)

(※3) ( )は火災件数。

(2) 東海 4 県の被害状況別 事故発生件数

表 2 に台所用品による子どもの製品事故の「県別」及び「被害状況別<sup>※4</sup>」の事故発生件数を示します。

表 2 台所用品による子どもの「県別」及び「被害状況別<sup>※4</sup>」の事故発生件数（単位：件）<sup>※3</sup>

被害状況 <sup>※4</sup>		静岡県	愛知県	岐阜県	三重県	合計
人的被害	死亡	0	0	0	0	0
	重傷	1	0	1 (1)	0	2 (1)
	軽傷	1	1 (1)	0	0	2 (1)
物的被害	拡大被害	0	1 (1)	0	0	1 (1)
	製品破損	0	0	0	0	0
合計		2	2 (2)	1 (1)	0	5 (3)

(※4) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている

(3) 東海 4 県の台所用品による子どもの製品別の被害状況 事故発生件数

図 1 に台所用品による子どもの製品事故の「製品別の被害状況」の事故発生件数<sup>※3</sup>を示します。

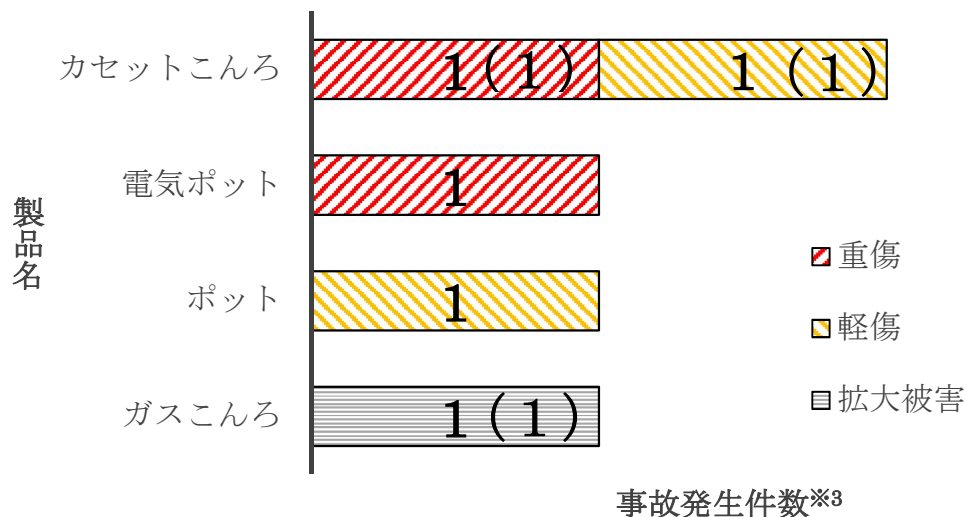


図1 台所用品による子どもの製品別の被害状況<sup>※4</sup>

(3) 東海4県の台所用品による子どもの年齢区分別 事故発生件数

子どもは、年齢に伴って成長し行動が変わります。以下に年齢区分<sup>※5</sup>別の傾向を示します。

2010年度から2019年度までの台所用品による子どもの事故5件について、図2に「年齢区分<sup>※5</sup>別の製品分類別」の事故発生件数<sup>※3</sup>を示します。6歳までは電気調理機器の事故が多く、7歳以降になるとガス調理機器での事故が目立ちます。また、火災は、ガス調理機器で多く発生しています。

(※5) 年齢区分は、0~1歳未満（乳児期）、以降3歳ごとに区分した。

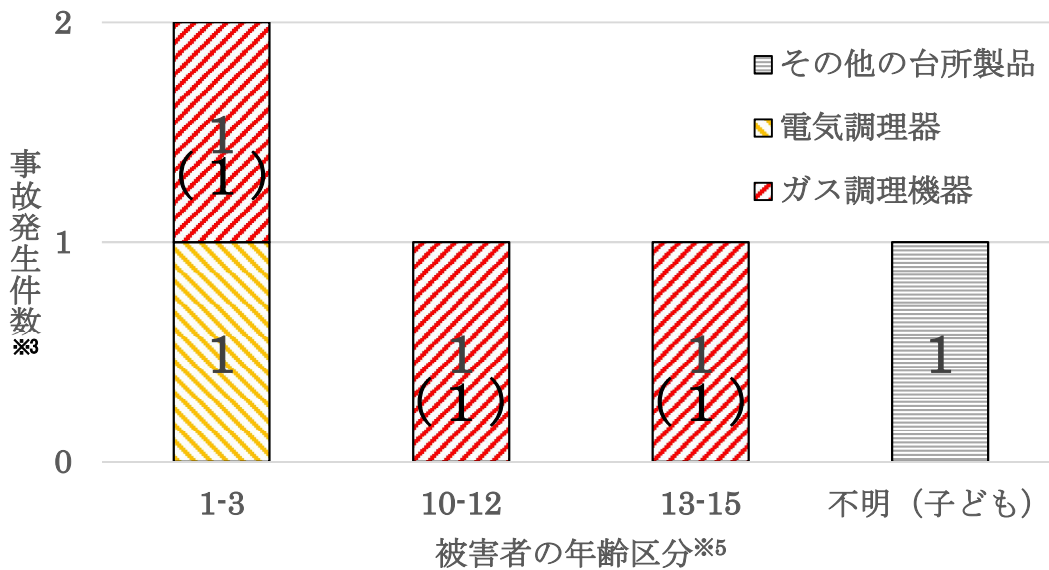


図2 台所用品による子どもの年齢区分<sup>※5</sup>別 製品分類別 事故発生件数<sup>※3</sup>

図3に「年齢区分<sup>※5</sup>別の被害事象別」の事故発生件数<sup>※3</sup>を示します。電気ポットなどでやけどを負う事故が最も多く発生しています。

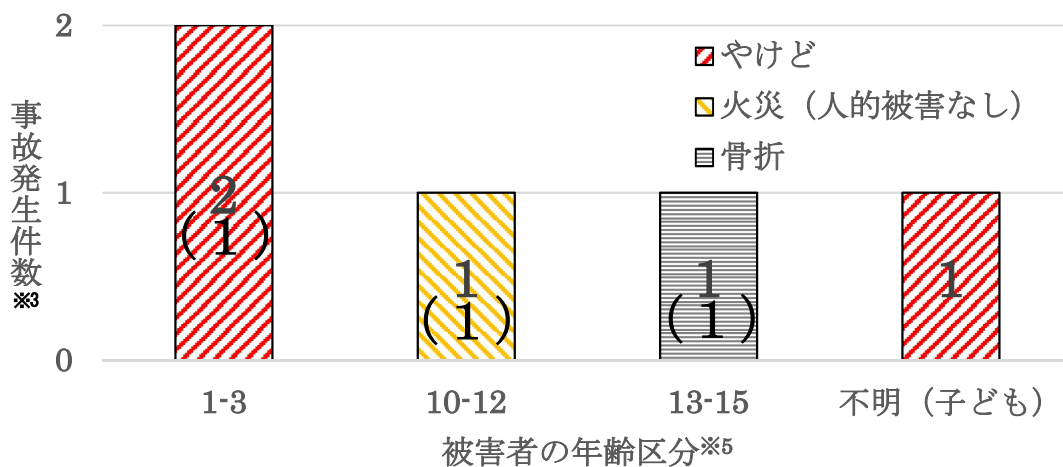


図3 台所用品による子どもの年齢区分<sup>※5</sup>別 被害事象別 事故発生件数<sup>※3</sup>

#### (4) 東海4県の台所用品による子どもの事故発生時の状況

2010年度から2019年度までの台所用品による子どもの事故5件について、図4に「事故発生時の状況」を示します。子どもが大人と一緒にいたときに起きた事故が4件（80％）そのうち大人が目を離した際に起きた事故が1件（20％）、子どもだけの時に起きた事故が1件（20％）発生しています。

大人と一緒にいても、目を離した際に事故が発生しているため、一緒にいる際は子どもから目を離さないように注意してください。また、大人と一緒にいて発生した事故の中には、大人が注意していれば防げた事故があります。

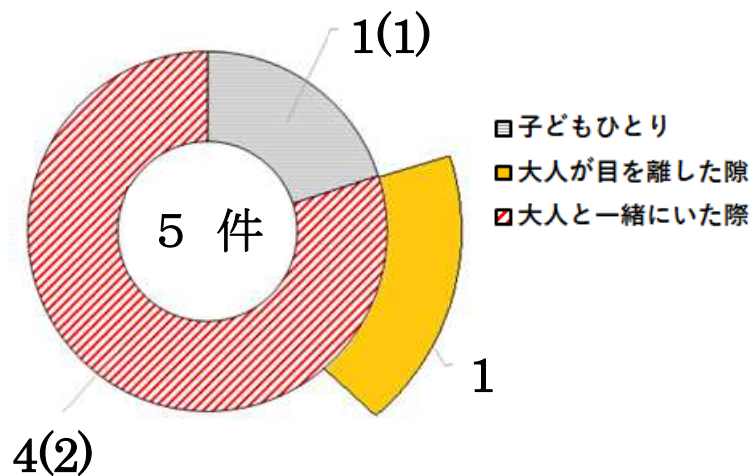


図4 台所用品による子どもの事故発生状況 事故発生件数<sup>※3</sup>

## 2. 台所用品による子どもの製品事故の事故事例

### (1) 電気ポット

**大人が目を離した際に子どもがやけどを負った。**

2010年5月（静岡県、1-3年齢区分<sup>※5</sup>・性別不明、重傷）

#### 【事故内容】

電気ポットが倒れた際に、ふたが開き、中の熱湯がこぼれ、1名がやけどを負った。

#### 【事故原因】

電気ポットは、転倒時にふたは外れない構造であることから、ふたの閉め方が不完全であったため、転倒した際にふたが外れやけどを負ったものと推定される。

なお、本体及び取扱説明書には、「乳幼児の届く所で使わない。」、「ふたは確実に閉める。」旨、記載されている。



写真 台所用品による子どもの再現実験映像

### 3. 台所用品による子どもの製品事故の実験映像について

台所用品による子どもの製品事故の実験映像及び静止画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「NITE（ナイト）・中部支所」としてください。

**(本件に関するお問い合わせ先)**

〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-5-1 名古屋合同庁舎第2号館

独立行政法人製品評価技術基盤機構 中部支所

支所長 宮川 七重

担当者：横田、横山

電話：052-951-1933、FAX：052-951-3902、携帯：080-3736-7515

以上